

である。ゾロアスター教が善惡の二元論を唱えながら善神の最後の勝利を確信して一元論的傾向が強いのに反して、徹底的な二元論を主張しているところにその特徴が見られる。ペルシアではゾロアスター教徒のために迫害されて國外に逐われ、中央アジアから中國方面へ流傳したもので、その傳播に當つたのは恐らくソグド人であつたに違いない。前に述べたソグド語の七曜名の唐に傳えられたのも、ソグド語を使用していた彼等の媒介に依つたものに外ならぬ。摩尼教が中國へ入つたのは唐代になつてからで、六九四年（則天武后の延載元年）のことと傳えられている。この教はその折衷主義の然らしめたところとして頗る抱擁力に富んでいたから、民族宗教としての色彩の強いゾロアスター教が、イラン民族以外に多くの信者をもち得なかつたのに反して、非常な傳播力を發揮し、一時はアジア、アフリカからヨーロッパの一部にまで流行した。近年發見された新史料の中に、中期ペルシア語・ソグド語・トルコ語・漢文・コプト語などに譯されたこの教の經典が見出されることは、その最も確かな證據と言つてよい。八世紀の中ばごろ回鶻人の間に弘まつて忽ちその國教となり、回鶻可汗の顧問に任じられた摩尼教僧侶が國政を左右する程の勢力を振うに至つたことは有名な事實である。中國に傳來してから漢人の間にも相當の信者ができたことは、數種の漢譯經典の存在によつても明かであるが、唐の中期以後の中國の摩尼教徒の大部分は、當時中國の各地へ入り込んでいた回鶻人であつたと思われる。このことは長安・洛陽・太原などを始め揚子江流域の諸都市に、大雲光明寺と呼ばれる摩尼寺が建立されたのが總て回鶻人の請によるものであつた事情からも推知することができる。

玄宗の時代から既に邪教として漢人に對してはその信仰が禁止されていた摩尼教は、回鶻人やソグド人の勢力を